

# 6

June 2019  
Vol.36 NO.3

心をはぐくむ.....

# 道徳と 特別活動

Moral Education & Special Activities

道徳と特別活動 6月号  
令和元年5月19日発行(毎月16日発行)

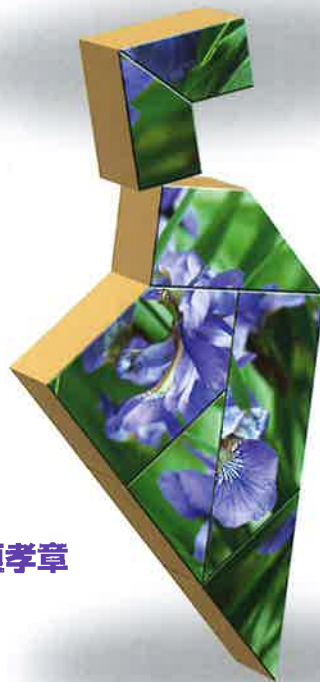
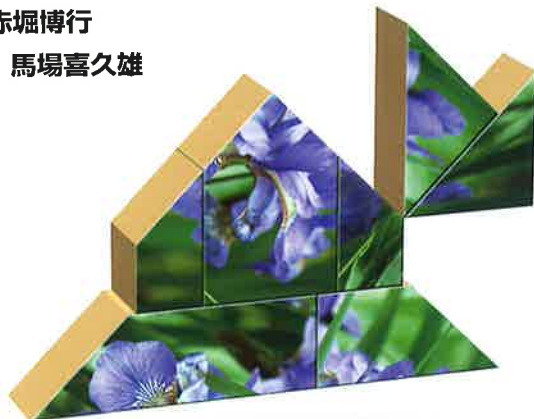
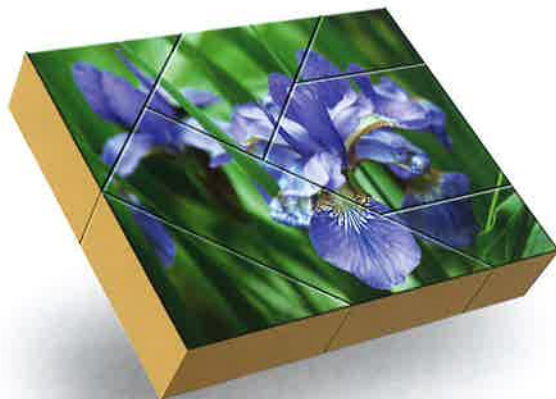
第35回  
道徳と特別活動の  
教育研究賞

●教員(個人)の部 審査員/受賞の言葉  
文部科学大臣賞・最優秀賞論文発表

## 特集●ねらいと指導の一体化を図る3つの関係性

—「指導の意図とねらい」「ねらいと発問構成」「発問構成と教科書」—

- 論考「教師の明確な指導観に基づく確かな授業構想」赤堀博行  
「道徳科の授業のねらいに応じた多様な発問構成」馬場喜久雄  
「特質を踏まえた自分らしい授業づくり」松井 敏
- 実践〈道徳的判断力〉木村隆史  
〈道徳的心情〉内田智之  
〈道徳的実践意欲と態度〉橋本ひろみ



### 連載

- 道徳科の授業のストライクゾーン—浅見哲也
- 特別活動指導資料の効果的な活用—安部恭子
- 道徳授業マネジメント—赤堀博行
- 道徳と特別活動の効果的な指導を支える学級経営コンサルタント—稲垣孝章
- 大人のための道徳講座—木村良平
- 実践赤ペンチェック
- 教科等に関連付けた体験活動プログラム
- 世界のTOKKATSU便り

# 「好き」を大切に

天文学者 小松英一郎

～子どもたちに贈るメッセージ～

## 今、君たちに伝えたいこと

僕は天文学者です。「宇宙の始まり」を研究しています。

「宇宙の：始まりを：研究している？」

意味が分からない、そう感じる方がほとんどのようです。「宇宙の始まり」なんて、ロマンはあってもただの空想で、科学ではないと思われるかもしれませんが。

そこで、僕は続けます。「空想ではなくて、宇宙の始まりを望遠鏡で見て研究しているのです」。するともう、「小松英一郎は、おかしな人なんじゃないか」と思われることになります。そんなものが直接見えるわけではない、と。

でも、本当なのです。かつて宇宙は灼熱の火の玉で、その灼熱の宇宙を満たしていた光は消えることなく、今も宇宙を満たし地球に降り注いでいます。あの星よりもっと遠くから、宇宙が始まったころの光が、今もここに届いているのです。この光を集め

て調べれば、宇宙の始まりを観測できます。例えば、僕たちは宇宙の始まりが百三十八億年前であることを明らかにしました。

「宇宙の研究は、生活の役に立つのですか」と聞かれることがあります。もちろん、何の役にも立ちません。もし、誰かが空を見上げたことがあって、太陽や月や星を見たことがあって、それで何も感じなかったのであれば、天文学者は、その人にとっては意味のない存在です。でも、もし、少しでも宇宙について不思議に思ったのなら、天文学者は、その不思議のほとんどを解決することができます。天文学者はそんなふうには、必要な人が、必要なときに、必要だけ使ってもらえればよいのです。

絵画・彫刻・音楽・演劇のような芸術や、テレビドラマ・お笑い芸人のようなエンターテインメントは、生活の役には立ちませんが、それが好きな人には



プロフィール

1974年、兵庫県宝塚市生まれ。小学校5年生のころ、父に買ってもらった天文学図鑑のオリオン座大星雲 M42 の写真に魅せられ、将来は天文学者になると決める。東北大学理学部卒、理学博士。現在、ドイツのマックス・プランク宇宙物理学研究所で所長を務め、宇宙の始まりから終わりまでを物理学の理論と天文学の観測を駆使して研究する。東京大学のカブリ数物連携宇宙研究機構主任研究者も兼任。西宮湯川記念賞、日本天文学会林忠四郎賞などの国内の賞に加え、米国物理学会フェロー、基礎物理学ブレイクスルー賞などの国際的な賞も多数受賞。

著書に、小説家の川端裕人氏との共著『宇宙の始まり、そして終わり』（日本経済新聞社・日経プレミアシリーズ）がある。

は、生活にうるおいをくれるものですよね。天文学は役に立つのか立たないのか。それは役に立ちませんが、宇宙に興味がある人にとっては、生活にうるおいを与えるような存在でありたいと願っています。

例えば、ふと、「宇宙に始まりがあるなら、今の宇宙は何歳だろう」と思つたとします。インターネットが普及した現在では、検索すれば答えは百三十八億歳だと、一瞬で分かります。でも、宇宙は百三十八億歳つてことを、誰が、どうやって見つけたのでしょうか？ それは天文学者が、望遠鏡を作つて観測して、夜を徹してデータを調べて、何年も掛けて見つけたものです。宇宙が何歳かなんて、知らなくとも生きていきます。でも、知りたい人には、答えが分かつたらその日はちよつとうれしい。そんなふうに僕たちの研究成果を楽しんでもらえたなら最高です。

どうして天文学者は、役にたたないことを一生懸命やるのでしょうか？ それは、宇宙が好きでたまらないからです。自分の知りたいことを知るためには、寝ることも食べることも忘れてしまいます。

学者は、「一般のほとんどの人たちにはどうでも

いいことだけれど、自分が好きな分野で新しい知識を発見する人たち」です。僕の母は、帰省すると今でも「英一郎は勉強熱心ね」と言います。そんな母の、優しい言葉に対して親不孝な僕は、「母さん、これは勉強じゃなくて、研究なの」などと言つてしまいます。

さて、違ひは何でしょう。勉強とは、誰かがすでに見つけた知識を学ぶことです。研究とは、まだ誰も見つけたことのない知識を発見することです。つまり、学者とは、まだ誰も知らない、新しいことを発見する人たちのことです。でも、たいてい得意分野は非常に狭く、自分の興味あること以外は知らないのです。変人扱いされることがあります。でも、いいのです。誰に何と言われようと、好きでたまらないことを毎日やって、お給料をもらえるのですから、こんな幸せなことはありません。

あなたには、好きなことはありますか？ 夢中になれるものはありますか？ どんなささいなことでもよいのです。もしあるなら、その「好き」を大切にしてください。誰に何と言われようと、好きなことは好きでい続けてください。夢中になれることがあれば、毎日はずっと楽しいはずですから。